

普及項目	養殖試験
漁業種類等	藻類養殖業
対象魚類	スジアオノリ
対象海域	八代海

スジアオノリの人工採苗試験

県南広域本部水産課・梅山 昌伸

【背景・目的】

現在、不知火海湾奥の主産業であったノリ養殖は衰退の一途を辿り、三角町漁協に僅か2経営体を残すのみとなっている。特に、ノリ養殖発祥の地である鏡町漁協では、ノリ養殖自体が途絶えてしまい、残された広大な漁場では、カキ養殖とスジアオノリ（以下「アオノリ」という。）養殖が僅かに営まれている。

そこで、残されたノリ養殖資材やイ草乾燥機を利用して経費を抑えつつ、高単価な製品が作れるアオノリ養殖に注目し、残存している1経営体を指導し、その有益性を他の組合員に証明することで、アオノリ養殖への新規参入を促し、遊休漁場の有効活用と水産業振興に供することを目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 人工採苗試験：平成30年11月19日に球磨川河口で採取した石から、アオノリ剥離（写真①）、粗いメッシュネットで包み海水で洗浄（写真②）、包丁で細断した後（写真③）、目の細かいメッシュネットで包み水道水流水下で10分程度暴露した（写真④）。これを、漁協カキ殻培養場内で特に明るい場所に設置した50ℓパンライト水槽（塩素処理済みの滅菌海水を微通気により循環）内に投入し（写真⑤）、遊走細胞の放出を待った。

3日後の遊走細胞の放出状況は悪く、水槽内の塩分濃度が低かったことが原因と考えられたため、11月27日に水産研究センターで同様の試験を生産者と共に再度実施した。2日後に遊走細胞の放出を確認し、生産者の網を同水槽内に漬け込み、数日間微通気で育苗した結果、網への着生（緑色着色）が確認され、採苗は成功した。

(2) 人工採苗網養殖試験：人工採苗網を生産者が養殖漁場に張り込み、生育状況を目視観察し、その結果を聞き取った。

【成果・活用】

(1) 人工採苗試験：人工採苗について、作業自体は難しくなく生産者の感触もよかったため、今後は規模の拡大や早期採苗、陸上育苗、冷蔵保存など、試験テーマを持って引き続き指導していく予定である。

(2) 人工採苗網養殖試験：当初からの生育は良く、特に葉形（細さ）と軟らかさに優れ、最終的には先に張り込んでいたアオノリよりも伸び足が良かったが、摘採直前に流失し、張り込んで間もない人工採苗網は、降雨等による淡水化に弱いと推定された。



写真①
球磨川自生アオノリの採取



写真②
アオノリ洗浄



写真③
洗浄したアオノリの細断



写真④ 水道水でさらす



写真⑤ 水槽に投入